4日　火曜

ヨハネ

　18:1 これらのことを話してから、イエスは
弟子たちとともに、キデロンの谷の向こうに
出て行かれた。そこには園があり、イエスと
弟子たちは中に入られた。
18:2 一方、イエスを裏切ろうとしていたユダ
もその場所を知っていた。イエスが弟子たち
と、たびたびそこに集まっておられたからで
ある。
18:3 それでユダは、一隊の兵士と、祭司長た
ちやパリサイ人たちから送られた下役たちを
連れ、明かりとたいまつと武器を持って、そ
こにやって来た。
18:4 イエスはご自分に起ころうとしているこ
とをすべて知っておられたので、進み出て、
「だれを捜しているのか」と彼らに言われた。
18:5 彼らは「ナザレ人イエスを」と答えた。
イエスは彼らに「わたしがそれだ」と言われ
た。イエスを裏切ろうとしていたユダも彼ら
と一緒に立っていた。
18:6 イエスが彼らに「わたしがそれだ」と言
われたとき、彼らは後ずさりし、地に倒れた。
18:7 イエスがもう一度、「だれを捜している
のか」と問われると、彼らは「ナザレ人イエ
スを」と言った。
18:8 イエスは答えられた。「わたしがそれだ、
と言ったではないか。わたしを捜しているの
なら、この人たちは去らせなさい。」
18:9 これは、「あなたが下さった者たちのう
ち、わたしは一人も失わなかった」と、イエ
スが言われたことばが成就するためであった。
18:10 シモン・ペテロは剣を持っていたので、
それを抜いて、大祭司のしもべに切りかかり、
右の耳を切り落とした。そのしもべの名はマ
ルコスであった。
18:11 イエスはペテロに言われた。「剣をさ
やに収めなさい。父がわたしに下さった杯
を飲まずにいられるだろうか。」
18:12 一隊の兵士と千人隊長、それにユダヤ
人の下役たちは、イエスを捕らえて縛り、
18:13 まずアンナスのところに連れて行った。
彼が、その年の大祭司であったカヤパの
しゅうとだったからである。
18:14 カヤパは、一人の人が民に代わって死
ぬほうが得策である、とユダヤ人に助言し
た人である。

Bible Reference 聖書の記述

　神様はかつてご自身を表すのに「わたしは『わたしは在る』というものである」と言われました。これは何にも依存せずに、全く自立した絶対的な存在であることをあらわしています。それゆえユダヤでは、神の臨在を「わたしはある」ということばで表したのです。

　イエス様が「わたしがそれだ」といわれたのは、ユダヤのことばでまさに「わたしはある」ということばです。すなわち「わたしは神である」と宣言なさったのと一緒です。兵士たちはその圧倒的な権威のもとに、立っていられなくなって、「あとずさりし、そして地に倒れた」のでした。

　イエス様は翻弄され、全く無力のようでしたが、その根底にあるのは、このような絶対的な神の権威でした。ですから、ペテロの剣も計画を変えることはなく、また神に敵対する大祭司アンナスも「ひとりの人が民に代わって死ぬことが得策である」と、意図せずに正しい解釈をしたのでした。

　無力の中にも神の主権は変わらないということを信じましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？